

ZoneC コミュニティ

持続可能なコミュニティをコーディネートする いつもの居場所を離れてみることから開ける可能性

私たちが学び成長する時、多くの場合、自分とは違う個性を持った他者との出会いがあります。これは ZoneC の歩みの中で繰り返し発見されてきたことです。若者や移住者が地域住民と出会う時、小学生が地域の伝統に触れる時、地元の経営者が中学生と対話する時、そこにはいつもお互いに学び成長する場が生まれていました。このような出会いは、いつもの自分の居場所から離れる時に生まれるように見えます。今回の ZoneC では、私たちがいつものコミュニティを離れて、一時的に違うコミュニティに参加することで開ける豊かな可能性について考えていきます。

スポットを当てるのは、「足羽川ふれあいマラソン」という地域社会で長く親しまれているイベントです。この大会は社会福祉法人足羽福祉会によって主催されており、その運営は多くのボランティアによって支えられています。ボランティアには地元住民だけでなく、小学生も中学生も高校生も大学生も PTA も会社員も行政職員も障がいのある人もない人も、多様な人が集い、思いを共有し、協力しあって、ふれあいとおもてなしに満ちた大会を実現しています。広くわかち合われた大会への思いは、スタッフの皆さんの明るい挨拶、沿道の声援や吹奏楽部の演奏、ゴール後の美味しいぜんざい、荷物預け所のスムーズな運営など、随所に感じられます。

注目したいのは、いつもの日常を離れて集った多様な人たちが、どのようにして見事な成果を生み出すようになったのか、その過程で個人とコミュニティにどんな変化が生まれてきたのか、という点です。なぜなら、ここでは誰もがいつもの日常を離れており、だからこそ生まれてくる互いの支えあいや活かしあいがあり、それが成果につながっているように見えるからです。いつもの慣れた学校や職場や近所というつながりを離れて、未知の人たちと協力して何かを成し遂げようとする時、私たちの内面と間で何が生まれるのでしょうか。それはいつもの居場所に戻った時、どんな変化を生むのでしょうか。

いつもと違うコミュニティに参加し、いつもと違う人たちと協働する時に生まれる可能性を考えることは、現在あらゆるコミュニティが抱えている持続の困難さ、あるいはマンネリ化に対する新しい視界を開いてくれると考えています。私たちはいつもと違うコミュニティでいつもと違う学びを得て、それがいつものコミュニティに環流する時、人の成長とコミュニティの進化が好循環を始めるのではないかと。そんな可能性に向けた対話の時を紡ぎ出せればと思います。それは多様な背景を持つ私たちが集う ZoneC が持つ可能性の再発見にもつながるはずで

14:30～14:40 趣旨説明 富永 良史

14:40～15:00 実践報告「足羽川ふれあいマラソン」(仮)

高村 昌裕さん (社会福祉法人足羽福祉会)

15:00～15:20 大会運営を支えるボランティアのみなさんとの対談

コーディネーター：清川 卓二

15:20～16:00 小グループでの話し合い

16:00～16:15 休憩 (チャットタイム)

16:15～16:45 全体共有

16:45～17:15 小グループでの話し合い

17:15～17:40 全体共有と全体セッション～ふり返りと展望～

全体ファシリテーター：富永 良史